

今回の東京方面企業大学訪問に参加して、多くのことを学ぶことができました。

準備段階では、企業にアポを取るのが大変だと実感しました。最初は、工場見学の予約のように簡単に取れるものだと思っていました。しかし、相手は仕事をしている企業ですから、そう簡単に取ることはできませんでした。幸い中国大使館のアポを取ることができましたが、もう一ヶ所取ることはできませんでした。また、電話となると緊張してうまく伝えられないこともありました。僕たちの班は、様々な職種希望の人がいるため、意見を合わせるのが大変でしたが、班員の協力もあって、無事当日に大使館に行くことができました。このように、準備段階から多くのことを学ぶことができました。

1日目午前のディレクトフォースでは、新日鉄住金の社員の皆さんから、仕事の内容や、社会人としての心構えを聞くことができました。

新日鉄住金は世界第2位の鉄鋼メーカーであり、素材メーカーとして各種メーカーに材料を送っているそうです。鉄は河川工事や鉄道工事に使われるため、新興国では需要が伸びていて、国内需要が伸び悩む今でも、まだまだ成長産業のようです。国内の情勢だけではなく、世界に目を向けて就職先を決めたいと思いました。また、理系社員が多い新日鉄住金の中でも、文系の方に話を聞くことができました。商品を提案したり、戦略を練ったり、会社をアピールしたり、どれも大切な仕事だと思います。理系中心の会社でも文系の人も、また文系中心の会社でも理系の人も大切な役割を担っているのだと感じました。

社会人としての心構えで特に印象に残ったのは今やっている部活動などが、社会に出てから役に立つということです。僕がしている陸上競技では、目標に向かって練習メニューを組み立てたり、自分に打ち勝って他人に勝つこと、個人競技ながらチームで支え合うことが大事になります。将来に生かすためにも部活動に真剣に取り組みたいです。

また、外国人と関わる際に心がけることも学びました。日本人は空気を読んで何も話さない傾向がありますが、海外ではそれは通用しません。僕は、自分の意見をはっきりと言うタイプなので、相手の意見を尊重しつつ自分の主張を通せるようにしたいです。そして、言葉を伝えるというよりも、気持ちを伝えることを意識して、相手の目をよく見てコミュニケーションをとるようにしたいです。

1日目午後の大使館訪問では、中国の方に様々なことを聞くことができました。中国大使館はオフィス街の六本木にありながら、11,000 m²の広い敷地を持ち、本館の他にも、領事館やプール、テニスコートなどがありました。大使館の方は休日もここで過ごすため、宿舎も完備されていました。

本館の中には事務室の他に応接間や大宴会場、映画ホールがあり、文化交流の際に使用するそうです。

日中両国を繋ぐ大使館職員の方には、文化交流部配属の方ということもあって、文化面などの話をよく聞くことができました。日中両国は弥生、古墳時代の古代から深い関わりがあり、漢字、書道、囲碁、茶道など様々な共通点があります。大使館の方はその背景を踏まえ、両国の文化や芸術を知り、互いの民族を尊重することを心がけているそうです。

また、日本に来てから、母国中国の環境問題や政治問題について客観的に見るできるようになったそうです。一方、中国の人たちは日本のことを先進国で平和な国だと思っているそうですが、集団的自衛権の影響が平和なイメージも崩れつつあるそうです。

中国は確かに多くの問題を抱えています。しかし、メディアで伝えていることが全てではなく、実際とイメージが異なることも多いそうです。実際、大使館の方々は多くの日本人が持っている中国のイメージとは違い、丁寧に対応してくれました。実際に、その地を訪れることが一番その国をしるほうほうだとおもいます。



1日目夜の懇親会では、二高OBの方々と交流を深め、たくさんのお話を聞くことができました。

多くの人がハイレベルの大学に行く理由は、自分を限界まで高めたいからだと答えてくれました。ハイレベルの大学に入るということは、それ相応の努力をしなければいけません。しかし、ハイレベルの大学に入れば、恵まれた研究設備や有名な教授の授業を受けられるだけではなく、優秀な友達を作ることもできます。僕も妥協せずに上の大学を目指していきたいです。そして、そのためには効率的な勉強が大事だと言われました。スキマ時間を有効活用するとともに、得意教科ばかりをやらず、苦手教科を重点的に取り組みたいです。

しかし、偏差値だけで大学を選ぶのも良くないと言われました。例えば、偏差値80レベルの超優秀な生徒が、医者になる気もないのに東大理科三類に入ることがあるそうです。でも、名誉のために大学に入るのではないと思います。あくまで自分を高めるために入る

るわけであるので、興味のある学部・学科に進むようにしたいです。

また、時間のある大学生の間に色々なことに挑戦したいと思えました。自分で会社を立ち上げた先輩、1年かけて世界一周を成し遂げた先輩などがいました。世界一周した狭間先輩には詳しくお話を聞かせてもらいましたが、知らない土地を一人で訪れ、雄大な景色に触れ、現地の人と関わることは、座学では得られない多くのことを学べると思います。僕も社会に出る前に多くのことを経験したいです。

さらに、親元を離れ、東京で一人暮らしすることによっても、自分を高められると聞きました。僕も視野を広げ、人間性を高めるために、首都圏か関西圏の大学に行きたいです。

2日目の東大オープンキャンパスでは、工学部がなかったので、理学部を中心に回りました。東大は東北大と比べてオープンキャンパスの規模が小さいのが残念でしたが、二つの大学を比べることができました。東大にも東北大にも地球惑星科学科がありましたが、やっていることが異なりました。東北大では、地学と地理を結びつけて研究をしていましたが、東大では、岩石や大気、海などを化学的に見て、組成を研究していました。同じ学科名でも、研究科目が違うこともあるので、実際に行くことが大切だと思いました。

今回一番興味を持ったのは地震研究所でした。地震や津波の原理をわかりやすい模型で紹介してくれました。しかし、簡単な模型でもどのタイミングで地震が起こるかの予知は大変難しいらしく、実際の地震予測がどれだけ大変かを身をもって知ることができました。

その他に、物理で習った重力が、緯度、高度だけでなく、地下のつくりや、潮汐によっても変わるのだと分かりました。このように、中学や高校の授業では、普遍的な条件でのみ考えますが、実際には多くの要素が組み合わさって数式が決まるのだと感じました。

また、工学部は説明のみ受けましたが、世界の最先端をゆく東大で、学びたいという意欲が湧きました。

東大のオープンキャンパス、そして、東北大の際にオープンキャンパスを通して、他の学校のオープンキャンパスにもいってみたいとおもいました。僕は、東北大のオープンキャンパスで都市工学に興味を持ったので、興味を深めていきたいと思います。

今回の東京方面企業大学訪問を通して僕たちがまだまだ多くのことを学ばなければいけないこと、そしてその分僕たちの前には可能性が広がっていることを実感しました。先生方、訪問先の皆さん、OBの方々そして班員の皆さん、ありがとうございました。